

ニ ュ ー ス レ タ ー

明治大学史



Vol.10
May.1. 2013

Center for the History of Meiji University Newsletter



人権派弁護士研究会合同調査（2012年7月31日 長谷川太一郎生家（福島県大沼郡金

ニュース ヘッドライン

（巻頭言）大学史資料センターの課題

大学史資料センター所長 山 泉 進

特集 センター調査報告

I 人権派弁護士関係／II 木村礎関係／III アジア留学生関係／IV 昭和歌謡史（阿久悠）関係／V 岸本辰雄関係／VI 校友・法典論争関係

2012年度 大学史資料センター事業報告

明治大学史資料センター規程

大学史資料センター刊行物案内

三木武夫研究／総理の妻 三木武夫と歩いた生涯／布施辰治研究／明治大学小史 人物編／明治大学小史／木村礎研究 II／大学史資料センター報告 35 大学史活動

(巻頭言) 大学史資料センターの課題

明治大学史資料センター所長

山 泉 進

大学は転形期にある。この変化は、かつての大学令による改革や敗戦による新制大学の誕生というような劇的なものではなくて、緩やかな環境変化によって徐々に進行している。「国際化」や「情報化」というようなスローガンから始まった変化は、設置基準の「大綱化」によって加速され、いまでは「グローバル化」や「人材育成」としてプログラム化されてきている。個々の大学は、国立や私立というような壁をこえて、教育や研究、あるいは社会貢献における特色を求められている。

「法学」の普及を使命として誕生した明治大学は、「法学」という狭い枠をこえて、1949 年の新制大学においては、既設の法・商・政経学部にくわえて、文・工・農学部の 6 学部体制で出発した。現在の 10 学部体制にいたるまでには 130 年の歴史を必要としてきた。大学の「個性化」を語るには十分な時間と出来事とを経験してきた。資料センターの役割は、その歴史を検証することであり、未来にむけて「伝統」を再創造することである。そして、その成果を、教育研究あるいは社会連携に反映させることである。

ここで重要なことは、資料センターでの活動成果を大学全体で共有し、個々の政策において活かすことである。資料センターは、130 年を機会にして、『明治大学小史』を通史編と人物編の 2 冊分けて刊行した。いま、明治法律学校の創立と創立者たちの群像について、新書版を企画中である。資料センターは大学史関係の資料の収集・保存・展示のみならず、研究活動を通して情報を発信する場にもなっていかななくてはならない。

特 集 セ ン タ ー 調 査 報 告

大学史資料センターは明治大学のアーカイヴズとして、大学の歴史に関する様々な調査・資料収集活動を行っています。蓄積した資料を基礎として展覧会の開催や成果物等を刊行しています。

本号では2012 年度に実施した調査をご紹介します。

Ⅰ 人権派弁護士関係

① 人権派弁護士研究会合同調査

〈2012 年7 月31 日(火)～8 月2 日(木) 長谷川太一郎生家周辺(福島市大沼郡金山町)、山崎今朝弥妻・さい関係故地(青森県弘前市)、弘前市立中央図書館(同)〉

第2 期人権派弁護士研究会(研究代表 山泉進 法学部教授[センター副所長]・村上一博同教授[センター運営委員])では司法の世界で実績を挙げた人物について調査を進めています。本合同調査では東京第一弁護士会会長・最高裁判事を歴



(写真左) 長谷川太一郎と山崎今朝弥(同右)

任したのち、明治大学理事長をつとめた長谷川太一郎(1881-1968)と、人権派弁護士として名高い山崎今朝弥(1877-1954)の調査を行いました。

長谷川家は2013 年3 月の予備調査に引き続き2 度目の訪問です。前回に続き、当主の長谷川ヒデ子氏と、親族の星佐益氏から長谷川家について種々お話を伺いました。

翌日、会津若松市から弘前市に移動し弘前市内の山崎今朝弥妻・旧姓山形さい関係地(旧菩提寺・弘前教会・弘前女学校跡地等)を巡見しました。また秋田漣氏(シャンソン歌手・「シャンソン酒場 漣」オーナー)から、自らの出身校(前



身校を山形さいが卒業している)の歴史に関わる

さいが洗礼を受けた弘前教会
情報・資料の提供がありました。

最終日は弘前市立中央図書館にて、さいについて資料調査を実施しました。洗礼の記録や出身校の歴史に関わる資料などを確認しました。

(山泉進・村上一博・長沼秀明・飯澤文夫・中村正也・阿部裕樹 ※氏名は調査者。以下同じ)

② 山崎さい関係聞き取り調査

〈第1 回 2012 年7 月23 日(月) 山形明氏 第2 回 8 月20 日 山崎東吉氏 第3 回 2013 年2 月18 日(月) 同前〉

人権派弁護士研究会では、飯澤研究調査員と阿部センター室員を中心に山崎今朝弥夫人・さいのことを知るため、聞き取り調査を実施しました。

2009 年には山崎・さいの二女である山崎弘子氏に聞き取りを実施し、素封家であったというさいの実家・弘前のことについてお話を伺っています。

2012 年7 月、山崎やさいのことをより深く知るために、さいの弟の子で甥にあたる山形明氏にお目にかかりました。家系・両親・家族構成・菩提寺など貴重な情報をお伺いするとともに、各種資

料のご提供を受けました。なお①で紹介した弘前での巡見は山形氏のご教示に多くをよりました。

そして合同調査終了後の 2012 年 8 月および 2013 年 3 月には山崎・さいの二男東吉の令息である山崎東吉氏にお目にかかり、山崎とさいの結婚通知ハガキの原寸大写真、山崎とさいの写った東吉氏両親の結婚の入籍日や入籍地、子の出生年月日や住居地の変遷等についても、正確な情報をご提供いただきました。また、2012 年 9 月 6 日に山崎弘子氏と明治大学商学部で同窓生だった小林彌一氏にも聞き取りを行ない、弘子氏の話していたさいに関する事柄をご教示いただきました。

なお、本調査の詳細については飯澤文夫「山崎今朝弥妻さい調査経過」（『大学史紀要』第 17 号）にて報告いたしました。

（山泉進・村上一博・長沼秀明・飯澤文夫・中村正也・阿部裕樹）

② 山崎今朝弥関係書誌資料調査

〈第 1 回 2012 年 12 月 5 日（水）三康図書館（港区芝公園 4-7-4） 第 2 回 2013 年 1 月 17 日（木）日本近代文学館（目黒区駒場 4-3-55）〉

山崎今朝弥は多数の雑誌類や書籍を編集発行したことで知られています。「解放群書」をはじめとする雑誌類の一部が架蔵されている三康図書館および日本近代文学館にてこれらの雑誌類の所蔵調査を行いました。

なお調査経過は山泉・飯澤「人権派弁護士・山崎今朝弥が刊行した雑誌について——付「解放群書」一覧／「解放群書」データシート」（『大学史紀要』第 17 号所収）にて紹介いたしました。

（山泉進・長沼秀明・飯澤文夫・中村正也・阿部裕樹）

II 木村礎関係

木村礎関係資料調査〈2012 年 8 月 7 日（火）～8 日（水） 日産厚生会佐倉厚生園および旧堀田邸（佐倉市）、旧印西市立草深小学校【現草深ふれあいの里】〉、

同西の原小学校（以上、印西市）、香取神宮、笹川屋旅館、下小野集落（以上、香取市）

日本村落史と生活史研究に大きな足跡を残した元明治大学長・木村礎（1924-2004）に関して 2009 年から木村礎研究会では調査・研究を進めてきました。

今回は一昨年、昨年に続き木村が学生たちと進めた共同調査を跡づけるとともに、木村が代用教員をつとめていた頃の関係故地を巡見しました。

最初に訪れたのは日産厚生会佐倉厚生園です。ここはかつて佐倉藩主をつとめた堀田正倫^{まさとも}の邸宅にあたり、現在も佐倉藩政史料が収蔵されています。木村は 1958 年頃から佐倉藩政研究に取り組み、学生とともに同園に寝泊まりしながら藩政史料調査を行いました。その後共同研究は継続的に続けられ、成果は『譜代藩政の展開と明治維新』

（1963 年刊行）に結実しました。今回同園での調査では木村と教え子たちによる藩政史料閲覧の痕跡を探ることにしました。土佐博文氏（佐倉市役所総務部総務課市史編さん担当副主幹）のご案内を頂きながら『年寄部屋日記』、『天保校訂紀氏雑録』、『元文度改革大略』、『御仕置帳』、『御仕置留』などの史料を拝見しました。また土佐氏から、当時の調査で使用したと思われる、史料に挟まれた手製の付箋や史料目録などを見せていただきました。また土佐氏からは当時の合宿のようすについて、ご存じのことをご教示いただきました。



佐倉厚生園にて史料閲覧

土佐氏のご案内で佐倉城址を見学したあと隣接する印西市に向かいました。木村は現在の印西市にあった草深^{そうふけ}国民学校で 1941 (昭和 17) 年 8 月から 43 年 3 月まで教鞭をとっていました。草深国民学校の後進校である草深小学校はすでに 2003 年に分割・統合され現在は存在しませんが、同校建物は「草深ふれあいの里」として活用されており、その施設内の資料室に草深小学校関係の資料が残されていました。当時の学校の写真・地図や、教員時代の木村も写る集合写真などを拝見したあと、分割統合先の一つである西の原小学校へお伺いしました。同校の小島洋子校長のお計らいで、同校に引き継がれた名簿などの資料に加え、かつて木村が受け持った生徒の方々のうち、森川久子、鈴木シズ、香取ミツ、今井久子の各氏にお目にかかることができました。各氏は東京からやってきた若い木村に親しみを持ち、授業を受けた小学生時代の思い出を口々に語られました。

最後に草深国民学校教師時代の木村が食事や買物のために足を伸ばした利根川べりの町・木下^{きおろし}を



笹川屋旅館でご主人と

めぐり、初日の調査を終えました。

翌日はのちに『耕地と集落の研究』(1969 年)としてまとめられる旧香取社領地共同研究を跡づける調査を行いました。香取周辺の調査は、佐倉調査と同じ 1958 年から開始され、およそ 10 年にわたり行われました。

最初に利根川に面する香取神宮社一の鳥居を見学し、その後香取神宮社および同社の程近くにある笹川屋旅館を訪れました。笹川屋旅館は、木村

と学生たちが香取社領調査の際に定宿にしていました。東日本大震災による被害のため、旅館はすでに廃業されていましたがご主人から木村の調査のようすなどの思い出などをお伺いしました。

最後に訪れたのが、香取市下小野地区です。木村は下小野地区に 1959 年頃から 65 年まで断続的に調査に訪れています。同地区調査でユニークなのは、考古学の知見を活用したことです。同僚の大塚初重教授に同集落内の荒久遺跡の発掘を依頼し、古代・中世村落とその生活の痕跡を見出そうとしたのです(1964・65 年)。当時宿所に使用した宝蔵院を拝見したあと、下小野区長の玉井正浩氏と、下小野の高岡義徳氏、小林氏、藤田氏のご案内で荒久遺跡発掘場所を巡見しました。遺跡周辺ではいまだに土器の表面採取が可能でした。また耕地を調査する際に重要な湧水点や、その近く



荒久遺跡発掘址にて

にお住まいの椎名興司雄家などを辿り、種々お話を伺いました。

ほか本調査では、野田幸一(印西市教育センター学びの里所長)、杉山祐一(印西市教育委員会教育部生涯学習課文化班)、荒井世志紀氏(香取市教育委員会生涯学習課文化財班)の各氏に種々ご教示・ご協力を賜りました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

なお木村研究会では、こうした資料調査をもとに、大学史紀要第 17 号(2013 年 3 月刊行)において第 16 号に続き集大成となる研究成果報告を行いました。

（門前博之・村上一博・長沼秀明・森朋久・飯澤文夫・鈴木秀幸・村松玄太）

III アジア留学生関係

アジア留学生関係資料調査〈①2012年8月31日～9月3日 台湾調査 ②9月1日～4日 韓国ソウル調査 ③9月14日～18日 中国上海調査〉

明治大学は明治期からアジアを中心として多数の留学生を受け入れてきました。その歴史を明らかにするため、センターではアジア留学生研究会（代表 高田幸男文学部教授〔センター運営委員〕）を設置し、明治大学へのアジア留学生が社会的にどのような活躍をしていたのかを調査しています。

また、2012年度から人文科学研究所の総合研究「アジアの政治社会の民主化と明治大学留学経験についての総合的研究」の採択を受けています（2014年度終了予定）。2012年度は総合研究の一環としてアジア地域で現地調査を実施しています。

第一が台湾での調査です。高田教授、土屋光芳政治経済学部教授（センター研究調査員）、村上一博法学部教授（センター運営委員）、長沼秀明文学部兼任講師（同研究調査員）、アルバイト従事院生の小笠原氏のグループは8月31日から台湾に赴き、台北大学蔡龍保氏と会見、（2）校友会台湾支部と会見、（3）台湾師範大学蔡錦堂氏・台湾大学王泰升氏との会見をはじめ、各種の資料収集調査を実施しました。

第二が韓国・ソウルでの調査です。9月1日から、山泉副所長、秋谷紀男政治経済学部教授（同運営委員）、アルバイト従事院生の李恩元氏のメンバーにて韓国を訪問し、（1）校友会大韓民国支部との交流、（2）中央大学朴銓烈氏との会見、（3）趙素昂「三均学会」調査、（4）ソウル歴史博物館見学等の調査を行いました。

第三が中国・上海での調査です。9月14日から山泉副所長と、鈴木将久政治経済学部教授（同研究調査員 所属は当時）、協力院生の庄氏により

行われた調査では、（1）校友会・上海紫紺会との交流、（2）魯迅関係調査（旧宅、記念館他）、（3）中国共産党関係調査（創立記念館他）、（4）コミンテルン関係調査（陳独秀旧宅、大杉栄足跡他）、（5）『留日指南』調査等の各種調査・交流を実施しました。

アジア留学生研究会では今後も継続的な調査研究を推進していく予定です。

（高田幸男・山泉進・土屋光芳・鈴木将久・長沼秀明）

IV 昭和歌謡史(阿久悠)関係

阿久悠関係資料調査〈2012年10月4日（木）～6日（土） 高田屋嘉兵衛公園（ウェルネスパーク五色）、五色中央公園、都志小学校、鮎原駐在所跡地、洲本市立五色図書館、兵庫県立洲本高等学校、成錦堂書店、淡路オリオン（映画館）、玉尾座跡地、藤野康家、鳥飼八幡宮、金網座跡地（以上、兵庫県洲本市）、高見圭代家、江井港（以上、兵庫県淡路市）〉

日本を代表する作詞家・作家阿久悠（1937-2007）はだれもが知る多数の歌謡曲の作詞を手がけました。その数は5000曲以上におよび、シングルレコード売り上げは6800万枚に達しています。阿久は1959（昭和34）年に明治大学文学部を卒業し、その間多感な青春時代を過ごしました。大学では阿久が生前の1998年に特別功労賞を贈呈し、2011年にはご遺族から寄贈を受けた資料をベースに明治大学阿久悠記念館をオープンさせました。明治大学では阿久をはじめ音楽の世界で成功を収めた卒業生を多数輩出しています。センターでは2012年から昭和歌謡史研究会（代表 吉田悦志副所長〔国際日本学部教授〕）を設置し、阿久のほか、古賀政男（1904-1978）など、日本音楽史上で大きな貢献を果たした人物の検討を開始しました。最初に検討を進めているのが阿久悠です。

2012年は、阿久が生誕から18歳までを過ごした兵庫県淡路島の関係地の調査を行いました。調査場所やお会いする方々については、洲本高等学

校で阿久の同級生だった藤野康氏（「阿久悠」関連事業実行委員会会長）に終始懇篤なご配慮を賜



りました。阿久は警察官だった父親の仕事の関係で、淡路島の島内で転居を繰り返しました。

そのため調査地は島内の各所にわたりました。初日は阿久悠顕彰モニュメント（2010 年設置）・瀬戸内少年野球団モニュメント



（上）阿久悠顕彰モニュメント（下）瀬戸内少年野球団モニュメント

メント（1991 年設置）のある高田屋嘉兵衛公園（ウェルネスパーク五色）を訪問しました。同公園のある洲本市五色町は阿久が小学生時代をほぼ過ごした思い出の深い土地です。同公園には藤野氏と、同じく阿久の同級生だった十川英二氏（元五色町教育長）のお計らいで、同級生の琴井谷惠民（琴井谷ふとん店主）、来馬章雄（元五色町長）、秦莞二郎（書家・蒼遊舎主宰 埼玉県在住）の各氏がお集まり下さいました。

二つのモニュメントを拝見しながら、各氏より阿久に関する思い出をお伺いいたしました。

また同日夜には、以上の各氏に加え、同じく同窓生の安田錦生、竹内久美子、高見幸代の各氏も加わり、子供時代のご記憶から、阿久原作の映画「瀬戸内少年野球団」製作時に町ぐるみで協力をした思い出などをお聞きすることができました。

2 日目は、藤野・十川・琴井谷・来馬・秦・竹内各氏のご案内で、最初に「瀬戸内少年野球団」の舞台となった五色町内の関係各所を巡見しまし

た。五色中央公民館に保管されている五色町で阿久悠展解説パネルを拝見したあと、当時阿久が家族と住んでいた都志駐在所跡地、仲間と野球をした住吉公園、阿久の通った都志小学校です。



続いて阿久の生まれた地である洲本市鮎原に赴きました。同地では鮎原駐在所跡地を実見し、近くにある洲本市立図書館の「ふるさとの偉人阿久悠コーナー」及び文庫を同館高坂館長のご案内で拝見しました。そして洲本市中心部に移動しました。ここには阿久が通った兵庫県立洲本高等学校



鮎原駐在所跡地（駐輪場付近）

校をはじめ、阿久が通いつめた映画館があります。まず洲本高等学校を訪問し、西角正信教頭・野口哲司教諭、そして同校教諭OBの安田氏と、同じく教諭OBで阿久と同級生の板家隆行氏も加わり、阿久の在学中の様子や、同校の第二応援歌「未知に真っ赤な帆をはって」誕生のいきさつなどをお伺いしました。続いて同校資料室にて各種の貴重資料の閲覧を行い、図書室に置かれた阿久の同級

生である洲本高等学校第7期生一同寄贈による阿久悠作品書架を拝見しました。同校からは『世紀を越えて 洲本中学・淡路高女・洲本高 100 年の軌跡』『兵庫県立洲本高等学校 110 周年記念誌』のご寄贈を受けました。

続いて訪ねた成錦堂書店店主の湊格氏は本学校友です。同店発行の『MY BOOK IV』に、阿久の詩を寄せてもらったことがあります。湊氏から「阿久悠 おもいで」（新聞スクラップなど）、「淡路島の歴史」（「歴史手帖」5巻7号）、



「庚午事変特集」（「地方史研究会誌あわじ」所収）をご寄贈くださいました。

最後に阿久が高校時代に通った次の映画館を訪ねました。現存する淡路島唯一の映画館とな

ったオリオン座と、すでに駐車場となっていた玉尾座跡地です。二つの映画館のご案内や過去の写真の調査については板家氏が労をとってくださいました。

最終日は父親の仕事の都合で五色を転居した阿久が中学生から上京する年まで住んでいた地域を訪ねました。最初に、それらの地区近隣にお住まいの藤野氏のご自宅におじゃまし「瀬戸内少年野球団」制作にまつわる思い出をお伺いしました。続いて藤野氏のご案内により、鳥飼地区周辺に赴きました。鳥飼駐在所跡、金網座跡（芝居小屋・映画館）、瀬戸内少年野球団のクライマックスである船だんじりを撮影した鳥飼八幡宮を巡見しました。金網座跡ではかつての座主ご令嬢の栗井千代子氏に当時の金網座と、阿久の思い出を伺いま

した。

調査の最後に淡路市江井に向いました。江井は阿久が中学1年の時期を過ごした町です。1年に満たない期間ですが阿久の印象に強く残されており、『飢餓旅行』などの小説作品にも登場します。同級生である前出の高見氏は現在江井にお住まいです。高見家にて、江井中学校で阿久と同級生だった那木泰孝氏にお目にかかり少年時代の阿久の様子についてお話を伺いました。高見氏や那木氏のご案内で『飢餓旅行』に描かれる明石行きの定期便が出港した江井港、江井駐在所跡地を巡見し、調査を終えました。

調査に種々ご協力を賜った藤野氏・十川氏をはじめとする関係各位に深くお礼申し上げます。

（吉田悦志・村松玄太）

V 岸本辰雄関係

岸本辰雄関係資料調査〈2012年11月13日（火）～15日（木） 鳥取県立博物館（鳥取市）等〉

今次調査の目的は二つです。一つ目が、戊辰戦争従軍者を中心とした岸本辰雄関係者調査です。これは幕末維新期の岸本の動向を探るための周辺関係者調査です。これまでセンターの阿部室員が進めてきた岸本が所属した「新国隊」を中心とした調査の一環となります。二つ目が、藩校・尚徳館における岸本の在学記録調査です。前者に関しては、戊辰戦争従軍者のうち、禄高が比較的低い者（下級武士）について、鳥取県立博物館所蔵の藩士「家譜」を調査しました。しかし鳥取藩における戊辰戦争従軍者の全体像についての研究が進展中であるため、従軍者を探すことから調査を始める必要がありました。また学校行政の中心にあった藩士「家譜」についても調査しました。いずれも重要箇所はデジタルカメラで撮影しました。



調査の結果、10 数人の従軍者の「家譜」を確認できました。また、岸本に近い藩士グループである「因幡二十士」やその周辺人物についても関係資料を確認できました。

後者については、同館所蔵の「鳥取藩政資料」のうち、藩校の記録「学校（館）奉行日記」を調査しました。時間の制約もあり対象時期は安政6 年から慶応2 年途中までを対象として、重要箇所はデジタルカメラで撮影しました。調査の結果、岸本の個人名は発見できませんでしたが、「因幡二十士」のうち、藩校の教員を経て藩政に参画したメンバー（作善修蔵、大西清太、中野治平、塩川孝次、足立八蔵ら）の記録を確認できました。また前者に関する調査に関連して、文久・元治期に鳥取藩政で重要な位置を占めた学校行政出身者の動向を確認することができました。

その他鳥取県立博物館来見田博基学芸員、鳥取市歴史博物館横山展宏学芸員と、調査・研究の状況等の諸情報の交換を行いました。積み残しの課題については今後も継続調査する予定です。

(阿部裕樹)

VI 校友・法典論争関係

佐渡の入会関係資料および新潟新聞の法典論争関

今回の調査では、明治23 年から25 年の「新潟新聞」から法典論争関係記事を検索すること、佐渡地方の自治体史から入会関係記事を検索することと、これらの記事から予め確認しておいた新潟在住の明治法律学校出身の代言人・裁判官を照合し、その動きを知る作業を行いました。「新潟新聞」からは「商法施行延期に決す」『新潟新聞』4111 号（明治23 年12 月21 日、第一面）「法典実施論に就て」『新潟新聞』4541 号（明治25 年05 月28 日、第三面）、「民法商法の成行」『新潟新聞』4556 号附録（明治25 年06 月15 日）をはじめとする関係記事を拾い出しました。

佐渡地方自治体史の入会関係記事については、『佐渡 相川の歴史』通史編（近現代）1995 年、『佐渡 相川の歴史』資料集四（高千・外海府近世文書）1976 年、『金井町史』1979 年、『羽茂町誌』第四卷（通史編 近現代の羽茂）1998 年、『畑野町史』（総編 波多）1988 年、『新穂村史』1976 年、『佐渡大野史』（山と川と大地）1997 年、『大野区有文書目録』2000 年等を閲覧しました。なお当初佐渡ヶ島に赴き調査を行う予定でしたが、調査時荒天のため佐渡に渡航することは中止し、新潟での文

情報・資料のご提供について(お願い)

明治大学史に関する資料をひろく収集しております。どのようなことでも結構ですので、センター事務室(03-3296-4329・4085)までお気軽に御連絡ください。

頂いた情報・資料は整理して永く保存し、将来の明治大学史のために活用します。

献調査を行いました。

係記事の収集調査〈2013 年3 月7 日（木）～9 日（土）新潟県立図書館・同県立文書館〉

(村上一博)

2012年度 大学史資料センター事業報告

1 資料の調査・収集・公開

各部署で所蔵する、保存年限は終了したものの歴史的価値を有する学内文書の調査・移管を随時実施しました。部署により文書の保存状態はまちまちであり、これらの文書には劣化が進んでいるものも数多くあります。従前から取り組んでいる関係部署との連携をより深め、劣化の著しい文書類については速やかに移管を進めて整理・保存のための措置を講じ、大学アーカイヴズとしての機能強化を図っています。また、創立者・著名校友（昭和歌謡関係者・財界人関係者）・アジア留学生等に関する資料の調査・収集についても、継続して推進しています（詳細は本誌「センター調査報告」参照）。

蓄積した資料や情報は研究資源として学内外に幅広く公開します。2012年度は約250件の照会に対応しました。

2 編集・刊行

調査・収集の成果を学内外に広く公開するため、以下の刊行物を編集・刊行しました。

- ① 報告集『大学史活動』第35号
- ② 論文集『大学史紀要 第17号 木村礎研究Ⅱ』
- ③ 広報誌『ニュースレター 明治大学史』第10号（本誌）
- ④ 『M-style』連載「大学史の散歩道」執筆（年10回）

秋谷紀男「大学史の散歩道 vol.119 アンドリュー・カーネギーと佐藤慶太郎」『M-STYLE』No.49 2012年5月

村松玄太「同120 学生食堂の歴史」同No.50 2012年6月

山泉 進「同121 発禁本・言論の自由・平出修」同No.51 2012年7月

村上一博「同122 明治法律学校のイタリア人講師 パテルノストロ」同No.52 2012年8月

阿部裕樹「同123 創立者・岸本辰雄先生の藩士（サムライ）時代」同No.53 2012年10月

高田幸男「同124 中国国民党の元老・丁惟汾」No.54 2012年11月

吉田悦志「同125 阿久悠・小説『無冠の父』論—覚え書き」No.55 2012年12月

別府昭郎「同126 「『個』を強くする大学」の思想的根拠」No.56 2013年2月

- ⑤ 『雑誌 明治』連載「目で見える明治大学の歩み」執筆（年4回）

村松玄太「目で見える明治大学の歩み 48 学生サークルの歴史」『明治』第54号 2012年4月

阿部裕樹「同49 明大の図書館（1）」同55号 2012年7月

村松玄太「目で見える明治大学の歩み 50 運動部の昔」同56号 2012年10月

阿部裕樹「同51 明大の図書館（2）」同57号 2013年1月

3 教育

駿河台・和泉・生田・中野（※中野は 2013 年度新設）キャンパスにて「学部間
共通総合講座 明治大学の歴史」を開講しています。

明治大学で学ぶ学生に、学部間共通総合講座明治大学の歴史自分の学んでいる大学
がどのような理念で設置され現在に至っているのか、そして大学の特色がどこにある
のかを知らせ、大学をより身近に感じ、大学生活を豊かにすることを目的としていま
す。

4 展示

大学の理念や歩みを幅広い層にわかりやすく伝えていくため、センターで収集・
所蔵している資料の展示を実施しました。

- ①大学史展示室（常設展示 駿河台キャンパスアカデミーコモン地下1階）
- ②阿久悠記念館（常設展示 同）
- ③大学小史展示（企画展示 駿河台キャンパス大学会館1階）
- ④和泉小史展示（企画展示 和泉キャンパス第1校舎1階）
- ⑤和泉ヶ丘の75年（企画展示 和泉図書館1階ギャラリー）

5 社会教育

内外の幅広い層に向けた公開講座等を実施し、「開かれた大学」としての社会的
使命を果たします。

2012年度は10月21日（日）に開催されたリバティアカデミー公開講座
「阿久悠論—昭和歌謡の巨星」（吉田悦志委員）に協力しました。

6 大学史資料センター運営委員会・研究会等

2012年度にセンターで開催した各種会議・研究会等は以下の通りです。

※構成員の肩書は2012年現在。

①センター運営委員会

- | | | | |
|------|----------------|----|--------------------------------------|
| 第54回 | 2012年3月13日（火） | 議題 | 新規研究部会設置（財界人、昭和歌謡史、アーカイヴズ）
について 他 |
| 第55回 | 2012年5月16日（水） | 議題 | 2012年度センター体制について 他 |
| 第56回 | 2012年7月18日（水） | 議題 | 2013年度学部間共通総合講座「明治大学の歴史」につい
て 他 |
| 第57回 | 2012年9月26日（水） | 議題 | 2013年度学部間共通総合講座「明治大学の歴史」につい
て 他 |
| 第58回 | 2012年11月28日（水） | 議題 | 2013年度センター体制について 他 |
| 第59回 | 2013年1月23日（水） | 議題 | 2013年度センター体制について 他 |

②木村礎研究会

（構成員 門前博之研究調査員【座長・文学部教授】 村上一博委員【法学部教授】 藤田昭造研究
調査員【明治高校教諭】 飯澤文夫研究調査員【元研究推進部長】 長沼秀明研究調査員【文学
部兼任講師】 森朋久研究調査員【農学部兼任講師】 鈴木秀幸【協力執筆者・元大学史担当調

査役】 村松玄太【事務局・大学史資料センター室員】)

第24回 2012年3月16日(土) 内容 1 2012年度の進行計画について 2 合宿調査について
3 資料整理状況について

第25回 2012年5月19日(土) 内容 1 資料の残存状況について 2 合宿調査について 3
研究報告 門前

第26回 2012年6月2日(土) 内容 1 合宿調査について 2 研究報告 森

第27回 2012年6月30日(土) 内容 1 合宿調査について 2 資料の取扱いについて
3 研究報告 長沼

第28回 2012年7月28日(土) 内容 1 合宿調査について 2 研究報告 鈴木秀幸

○夏期調査合宿 2012年8月7日(火)・8日(水) 場所 千葉県佐倉市・香取市(詳細は特集参
照)

第29回 2012年9月8日(土) 内容 1 合宿調査について 2 研究報告 藤田

第30回 2012年10月27日(土) 内容 1 研究報告 飯澤

第31回 2012年11月17日(土) 内容 1 追加研究会の開催について 2 研究報告 村上

第32回 2012年12月22日(土) 内容 1 各自の論文進捗状況について 2 木村資料の明治
大学への寄贈の経緯に関する記事について 3 木村礎研究会の来年度以降の継続について

③人権派弁護士研究会(第Ⅱ期)

(構成員 山泉進副所長【座長・法学部教授】 村上委員 飯澤研究調査員 長沼研究調査員 中村
正也研究調査員【元中央図書館グループリーダー】 阿部裕樹【事務局・大学史資料センター室
員】)

第22回 2012年4月25日(水) 内容 1『解放』について 山泉 2 立川雲平について 村上
3『問題』について 飯澤 等

第23回 2012年5月16日(水) 内容 1『解放群書』について 山泉

第24回 2012年6月20日(水) 内容 1『解放群書』の所蔵状況について 飯澤 2 龍溪書舎
との打合せ結果について

第25回 2012年7月18日(水) 内容 1 若林三郎と伏石事件 村上 2 山形さいについて 飯
澤

○夏季調査合宿 2012年7月31日(火)～8月2日(木) 場所 福島県金山町・青森県弘前市
(詳細は特集参照)

第26回 2012年10月24日(水) 内容 1 夏季合同調査における収集資料の確認 2 山崎
今朝弥関係調査報告 飯澤 3 古屋貞雄についての文献 中村 等

○資料調査 2012年12月5日(水) 場所 三康図書館(詳細は特集参照)

○資料調査 日時 2013年1月17日(木) 場所 日本近代文学館(詳細は特集参照)

④アジア留学生研究会

(構成員 高田幸男委員【座長・文学部教授】 山泉副所長 村上運営委員 秋谷紀男運営委員【政
治経済学部教授】 土屋光芳研究調査員【政治経済学部教授】 鳥居高研究調査員【商学部教授】
鈴木将久研究調査員【政治経済学部教授】 李英美研究調査員【商学部特任教授】 長沼研究調査
員 阿部裕樹【事務局・大学史資料センター室員】)

第14回 2012年3月13日(火) 内容 研究費への応募について 等

第15回 2012年5月23日(水) 内容 2012年度科学研究費の審査結果について 等

第16回 2012年6月13日(水) 内容 海外調査について 等

第17回 2012年7月4日(水) 内容 蔡錦堂(台湾師範大学)先生を招いて意見交換した件につ
いて 等

第18回 2012年10月3日(水) 内容 海外調査報告 等

第19回 2012年11月7日(水) 内容 2013年度科学研究費の申請について 等

第20回 2012年12月11日(水) 内容 王雪萍先生を迎えて懇談会

⑤ 昭和歌謡史研究会

(構成員 吉田悦志運営委員【座長・国際日本学部教授】 小笠原渉運営委員【総務部長】 村松室員 阿部室員)

第1回 2012年4月10日(金) 内容 1 これまでの関連調査・展示・課題等について

2 方針・研究分担

第2回 2012年5月15日(火) 内容 『生きっぱなしの記』レポート 村松

第3回 2012年6月26日(火) 内容 『生きっぱなしの記』レポート 村松(承前)

○淡路島調査 2012年10月4日(木)～6日(土) 場所 兵庫県洲本市・同淡路市(詳細は特集参照)

第4回 2013年1月18日(金) 内容 淡路島レポート 吉田 村松

⑥ アーカイヴズ研究会

(構成員 別府昭郎所長【座長・文学部教授】 奥住賢二運営委員【総務課長】 小西徳應【政治経済学部教授】 古屋野素材【情報コミュニケーション学部教授】 吉村日出東【文学部兼任講師】 村松室員 阿部室員)

第1回 2012年7月27日(金) 内容 1 アーカイヴズ研究会の構想について 2 アーカイヴズの組織体制について 3 学内文書収集について

第2回 2012年10月22日(月) 内容 1 資料収集について 2 受入・整理人員体制 3 収蔵施設 4 センターの目的・位置づけ等

第3回 2013年1月28日(月) 内容 1 今後の研究会について 2 学内事務文書の調査及び体制について

大学史資料センタースタッフ一覧 (2013年6月10日現在)

所 長 山泉 進(法学部教授) 【2013年4月より】

副 所 長 吉田 悦志(国際日本学部教授) 【同 上】

運営委員 村上 一博(法学部教授)

同 秋谷 紀男(政治経済学部教授)

同 高田 幸男(文学部教授)

(以上, センター規程第8条第1項第3号に基づく委員)

同 奥住 賢二(総務部長)

同 鈴木 優一(総務課長)

(以上, センター規程第8条第1項第4・5号に基づく委員)

○事務局(総務部総務課〈大学史資料センター担当〉)

村松 玄太

直井 哲也

飯塚 貴子

阿部 裕樹

竹内 桂(嘱託)

森本 訓子(嘱託)

細川 七恵(嘱託)

明治大学史資料センター規程

2002年11月18日制定

2002年度規程第10号

(設置)

第1条 学校法人明治大学（以下「本法人」という。）に、明治大学史資料センター（以下「センター」という。）を設置する。

(目的)

第2条 センターは、本法人の歴史（以下「校史」という。）に関する調査、研究並びに校史に係る資料（以下「資料」という。）の収集、保存及び公開を行い、もって本学の発展に資することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 校史の調査及び研究
- (2) 校史の編纂
- (3) 資料の収集、整理及び保存
- (4) 資料の展示
- (5) 展示場の管理・運営
- (6) 校史に関する情報の提供等
- (7) 出版物等の編集・刊行
- (8) 講演会等の実施
- (9) その他必要な事業

(組織)

第4条 センターは、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 所長
 - (2) 副所長
 - (3) 第8条第1項第3号に定める運営委員
 - (4) 第8条の2に定める研究調査員
 - (5) 総務部総務課長及び事務職員
- 2 前項に掲げる者のほか、センターは、事業計画の実施上必要があるときは、嘱託を置くことができる。
- (所長)

第5条 所長は、センターの業務を総括し、センターを代表する。

- 2 所長は、専任教員である運営委員の中から、運営委員会が理事長に推薦し、理事会において任命する。
- 3 所長の任期は、2年とする。ただし、補欠の所長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 所長は、再任されることができる。

(副所長)

第6条 副所長は、所長を補佐し、所長に事故あるときは、その職務を代行する。

- 2 副所長は、所長が理事長に推薦し、理事会において任命する。
- 3 前条第3項及び第4項の規定は、副所長の任期及び再任について準用する。

(運営委員会)

第7条 センターに、次に掲げる事項について審議するため、運営委員会を置く。

- (1) センターの事業計画に関する重要事項
- (2) センターの管理・運営に関する重要事項
- (3) 校史の調査及び研究に関する事項
- (4) その他運営委員会が必要と認めた事項

(運営委員)

第8条 運営委員会は、次に掲げる運営委員をもって構成する。

- (1) 所長
 - (2) 副所長
 - (3) 校史に関して専門知識を有する専任教職員の中から、運営委員会の推薦に基づき、理事長が理事会の同意を得て委嘱する者若干名
 - (4) 総務部長
 - (5) 総務部総務課長
- 2 運営委員の任期は、職務上運営委員となる者を除き、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 3 補欠の運営委員の任期は、前任者の残任期間とする。
(研究調査員)

第8条の2 センターに、研究調査員若干名を置くことができる。

- 2 研究調査員は、本学教職員の中から、所長が運営委員会の同意を得て委嘱する。
3 前項の規定にかかわらず、運営委員又は研究調査員が退職する場合であって、当該者に継続して校史の研究を行わせることが適切であると所長が認めるときは、退職後も引き続き研究調査員として委嘱することができる。
(委員長及び副委員長)

第9条 運営委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長には所長を、副委員長には副所長をもって充てる。
3 委員長は、運営委員会の議長となる。
4 副委員長は、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。
(会議)

第10条 運営委員会は、委員長が招集する。

- 2 運営委員会は、運営委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
3 運営委員会の議事は、出席運営委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
4 理事長は、運営委員会に出席し、意見を述べるができる。
5 運営委員会は、必要に応じて、運営委員以外の者を出席させることができる。
(事務)

第11条 センターに関する事務は、総務部総務課が行う。

(規程の改廃)

第12条 この規程を改廃するとき、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、センターの管理及び運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て定める。

附 則 (2002年度規程第10号)

(施行期日)

- 1 この規程は、2003年(平成15年)4月1日から施行する。
(例規の廃止)
2 明治大学史料委員会設置要綱(1994年度例規第11号。以下「要綱」という。)は、廃止する。
(経過措置)
3 第5条第2項の規定にかかわらず、この規程の施行後に最初に所長となる者については、要綱第3条の規定による委員である者の中から、総長の推薦により理事会が決定する。
4 この規程の施行の際、現に要綱第3条の規定による委員である者については、この規程による最初の運営委員になるものとする。

(通達第1185号)

附 則 (2003年度規程第22号)

この規程は、2004年(平成16年)4月1日から施行する。

(通達第1255号) (注 センターに研究調査員を置くことができるようにするための改正)

附 則 (2005年度規程第16号)

この規程は、2006年(平成18年)2月2日から施行し、改正後の明治大学史資料センター規程の規定は、2005年(平成17年)4月1日から適用する。

(通達第1417号) (注 規定中「総長」を「理事長」に変更することに伴う改正)

附 則 (2007年度規程第39号)

この規程は、2007年(平成19年)11月8日から施行する。

(通達第1603号) (注 事務機構改革によるセンターの構成員、運営委員会委員の事務管理職名及び事務部署名の変更に伴う改正)

附 則 (2008年度規程第41号)

この規程は、2008年(平成20年)12月4日から施行し、改正後の規定は、同年9月16日から適用する。

(通達第1757号) (注 事務機構第一次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2010年度規程第2号)

この規程は、2010年(平成22年)5月13日から施行する。

(通達第1906号) (注 退職する運営委員又は研究調査員に対し引き続き研究調査員として委嘱できるようにするための改正)

——大学史資料センターの好評既刊——



三木武夫研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修 小西徳應編著 A5判上製 400頁 定価5460円(2011・10)

国民を懼れ、政党政治の未来を信じた「議会の子」三木武夫元首相。その実像に迫る明治大学三木武夫研究会共同研究の成果。



総理の妻 三木武夫と歩いた生涯 〈日本経済評論社刊〉

三木睦子著 明治大学史資料センター監修 明治大学三木武夫研究会編 四六判上製 288頁 定価2100円(2011・10)

激動の50年間を議員として生きた三木武夫の妻が語る、戦前戦後の政界秘話と人間・三木。



布施辰治研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修、山泉進・村上一博編著 A5判上製 328頁 定価4200円(2010・12)

日本統治下の朝鮮で独立運動家の弁護活動を引き受けるなど、「日本人シンドラ」&とも呼ばれる「人権派弁護士」布施の多面的な活動を史料とともに検証する。著作目録・年譜も掲載。



大学史紀要第17号 木村礎研究Ⅱ

A5判並製 394頁 価額800円(2013・3)

日本村落史・生活史で多大な業績を残し、明治大学学長を務めた木村礎。研究や関係者の証言で明らかにする。明治大学木村礎研究会の成果第2弾。



大学史資料センター報告第35集 大学史活動

A5判並製 84頁 価額500円(2013・5)

最新データを活用した若手研究者による論文集。今回は私立学校の歴史と創立者の特集する。

※大学史紀要・大学史活動は書店では販売しておりません。購入ご希望の方はセンターまでお問い合わせ下さい。



明治大学小史 人物編 〈学文社刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 248頁 定価2415円(2011・10)

明治大学が輩出し、各界で活躍する人物山脈は実に多様である。大学行政・アカデミズム・法曹・政治・財界・作家・芸能文化・スポーツの諸分野から119名を精選して紹介。国際化の潮流を取り入れ、「アジア人留学生」も項目も設けた。明大人必携の一書。



〔既刊〕明治大学小史——〈個〉を強くする大学130年——

明治大学史資料センター編 四六判並製 280頁 2520円(2010・3)

ニュースレター 明治大学史 vol.10 URL <http://www.meiji.ac.jp/history/>
発行日 2013年5月1日
編集・発行 明治大学史資料センター
住所 101-8301 千代田区神田駿河台1-1
電話 03-3296-4329・4085 FAX 03-3296-4086
Email history@mics.meiji.ac.jp